
さくらロード

鮎沢琴美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

さくらロード

【コード】

N1979F

【作者名】

鮎沢琴美

【あらすじ】

真夜中にひとり、さくらの道を歩く。

私はうつ向いている。

目線の先には水溜まりがある。

今朝まで降っていた雨の証だ。

そこに私はうまく写らない。

暗いからではなく私自身写ろうとしていないからだ。

自分の姿が写るのがこわい。

鏡はもちろん、透き通った窓ガラスも私は写るのを避ける。

私が私を見ると私は自信がなくなる。

上を見上げる。

咲き誇るといふ言葉通り彼らは自分自身を誇っている。

私もあんな風になりたい。

私も私を誇っていたい。

家の近所の通称さくらロードは春以外の季節は何のへんてつもな
いただの土手である。

しかし春は一定間隔に植えられたソメイヨシノが一斉に開花して多くの人が訪れる。

いわば春限定アイドルである。

でももう深夜でアイドルは哀しく照らされている。

照らされると言えばほとんどの人がライトアップを想像するのだからここにあるのは等間隔に配置された街灯である。

光の周りで小さな虫が飛び回っている。

街灯という名のライトは桜ではなく道を照らしている。

ロマンチックの欠片も無い。

でも静かでどこか悲しい雰囲気は私の中にずっと溶け込む。

こんな真夜中に1人散歩をする私にぴったりだ。

この辺りは田舎だから本当に何も無くて今見渡してみても光すら見えない。

物騒な事すら逃げていくようで良いも悪いも何も無い。

私は将来は都会に住みたいと思う。

一度友人と足を運んだ繁華街はテーマパークではないのに私にとっては夢の国であった。

都会に住む人には笑われそうだ。

今日は月が綺麗に見える。

今朝までの雨は空の雲がまるごと落ちてきそうなどしや降りだっただけとお昼からはよく晴れた。

私はやっと足元を照らす淡い光と影を見ながら歩き出した。

一歩一歩踏みしめながら思うのは今日のことだ。

何のへんてつもない毎日の繰り返しだったけど今日は少し「へんてつ」があった。

だからこそ今日初めて知った。

人を好きになると胸が苦しく、なんかならない。

苦しくなるのはもっと先なんだろうなと想像するけど、今日とはとにかく嬉しかった。

君の声が聞けるだけで。

君の横顔が見えるだけで。

君の笑顔を見ているだけで。

また水溜まりを見つけた。

やっぱり私は私のことを写すことはできない。

もつと先だったはずなのに気づいてしまった。

私と君じゃ釣り合わない。

ああ、苦しさを見つけてしまった。

私をもつと可愛かったなら。

もつとスタイルがよければ。

君ともつと話すことができたならば。

私と君は一生結ばれないのね。

長い長いさくらロードと呼ばれるこの土手は下を流れる川に沿っている。

その川は途中で大きく右に曲がるからさくらもそれに沿って大きく右に曲がる。

今日もその曲がり角まで散歩しよう。

その角を越えてさくらロードの端まで行くとなると帰りがくたびれる。

とりあえずゆっくり歩き始めた私の頭の中では学校の帰りに幾度も上映された「今日のへんてつ」がレイトショーだ。

「お前、絵上手だな」

私の席の斜め後ろに座っている山野が私の絵を覗きこんでそう言った。

私は何も言えなくてただ真っ赤になった。

絵を描くことが好きで私にとってそれはかけがえのないものだった。

それこそ本気で将来は絵を描いて生活したいほどだった。

でも私の絵は決して特別上手だとは言えなかった。

私くらいの絵を描くひとなんかいくらでもいるのだ。

今日の授業では手を描いた。

私は右利きだから左の手を描いた。

手を描くのはそんなに面白いことじゃなかった。

でも退屈な授業を聞くよりかはいくらかましだった。

先生に当てられないだろうかとビクビクする必要もない。

私は上手だと言われて素直に嬉しかった。

でもそのことが恥ずかしくて彼の言葉にありがとつも言えないままにうつむいてただ手だけ動かした。

私はまた後悔した。

いつもそうだった。

私は心の中の言葉を声に変換することがとても苦手だった。

同年代の人たちはみんなありのままの自分をぶつけあって笑って怒って泣いてを繰り返すのに私はただ自分の心の中だけで繰り返す。

頑丈なオリの中で思いが暴れている。

顔が熱くて少し震えてる。

心の中で繰り返し返す。

ありがとう。

私の絵を上手だと言ってくれてありがとう。

もちろんその声は届くことはなく私の心の中だけで山びこのように反響する。

彼は私のことを嫌いになったと思う。

私は彼の言葉を見殺したわけだから当然だ。

でも彼は「ごめん、邪魔したね。続けて」と言った。

私は本当に申し訳なくなった。

でもまだ顔が火照っていた。

小さく「うん」と言った。

言えて良かった。

休憩時間になって私は手を休めることにした。

君が好きだ。

はじめてそんなことを思った。

強い風が吹いた。

さくらの枝が擦れる音がした。

花びらが少し散って闇をバツクに街灯の光できらめく。

散らないでほしい。

散らないでほしい。

この気持ちだけは。

私の影が消えてしまったとしても。

もう何十年も経ったのに

年老いたあなたはここへ来てくれる。

あなたはいつもさくらを見上げながらゆっくりと歩く。

私は水溜まりに映らない。

あなたとは一生結ばれない。

何十年もの前の今日を私は何十回と繰り返す。

繰り返す度にあなたは年をとっていく。

繰り返す度に私はもっとあなたを好きになっていく。

あなたは腰をかがめて、来た道に戻る。

そして私は散る。

そしてまたさくらが咲く頃に戻ってくる。

私はしあわせだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1979f/>

さくらロード

2011年1月1日03時23分発行